平成 22 年度　事務事業事後評価調書（平成　21　年度事業）

整理番号	5	―	19

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	居宅老人交通費助成事業					
評価者	担当課名		保健福祉課	担当係名		社会福祉係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	葛西隆		氏名	前田忠和
事業の概要	居宅において生活を営む老人の通院等に要する交通費の助成を行っている。					

全体計画	/単年度繰返
（平成 20 年度～ 24 年度）	
事業費 国・道支出金	千円
地方債	千円
その他	千円
一般財源	28,000 千円
事業費計	28,000 千円

実施方法	■ 直営	□ 民間委託	□ その他（　）
第 5 期 総合計画（前期）	■ 登載事業	□ 非登載事業	優先度 B

事業の位置付け			
政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
基本施策	7	高齢者支援の充実	
単位施策	2	生活支援の充実	
事務事業の種類	■ 自治事務	□ 法定受託事務	
その他計画・根拠等	居宅老人交通費助成要綱		

事業費 実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(見込)	23年度(計画)	24年度(計画)
国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
地方債	千円	千円	千円	千円	千円
その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
雄武町負担額（一般財源）	4,543 千円	4,449 千円	5,250 千円	5,600 千円	5,600 千円
合計	4,543 千円	4,449 千円	5,250 千円	5,600 千円	5,600 千円

2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	高齢者	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）		
【抱える課題やニーズは】	高齢者が健康で生きがいのある生活が送れるよう各種サービスの提供など総合的な支援が求められている。	交通費の助成		
		指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	外出するきっかけをつくり、高齢者の生きがいづくり、社会参加活動への参加を図る。	① 交付実績	目標年度	平成21年度
			目標値	540 名
			実績値	498 名
			達成度	92.2 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】※成果＝目的	外出する機会が少なくなりがちな高齢者に対し外出するきっかけを提供し、生きがいづくりや健康増進が図られる。	②	目標年度	
			目標値	
			実績値	
			達成度	%

内容（どのような手段で何を行ったか）	
①助成券の交付	対象者からの申請に基づき審査を行い、交通費助成券を交付している。
②交通費助成	委託先からの請求により、基本料金相当分を支払う。

3　事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	□義務的なもの □全部 □一部	自家用車を持たない町民の移動手段として、通院等に要する助成は欠くことのできないものであり、町がそれを維持することは必要である。当該事業を実施しない場合、健康増進を損なうおそれがある。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 ■達成 □ほぼ達成 □下回る	外出する機会が少なくなりがちな高齢者に対し、ハイヤー券を交付することにより外出するきっかけを提供し、生きがいづくり、健康づくりを図ることは有効である。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 □事業費抑制 □人員削減 □時間短縮・作業軽減 ■その他	前年度の申請者については、予め申請書を作成していたため申請書を記載する時間が短縮できた。コストについては、必要最低限で実施しているため、削減の余地はない。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □受益者負担がある □受益者負担がない □受益が一部に偏る ■その他	一定要件を満たしていれば、申請者すべてに交付されることから公平である。

4　総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
高齢者が年々増加する中、高齢者一人一人が健康でいきいきと暮らしていくための有効な手段と考える。今後も計画どおり事業を進めることが適当である。		

今後の展開方向
（Action）

継続／現状維持		
健康増進を図るために町の支援は必要であり、高齢者福祉の向上のため、継続して行う必要があることから、当分は現状維持が適当である。		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5　その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）